授業名： 英会話Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
ロバート ホルト	英会話講師 14年勤務	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.					知識・理解 コミュニケーションスキル 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】 Students will be expected to do homework as and when set. Students will need a dictionary in class.						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	7A - What do you do in your free time?		G word order in questions. V sports, common verb phrases, P sentence rhythm.			
2	7B Lights, camera, action!		G imperatives, object pronouns, V kinds of films, P sentence rhythm and intonation.			
3	Practical English: What's the date?		Months, Ordinal numbers and saying the date.			
4	8A - Can you start the car, please?		G can / can't, V more verb phrases, P sentence rhythm.			
5	8B - What do you like doing?		G like / love / hate + verb + -ing, V activities, P sentence rhythm.			
6	9A What are they doing?		G present continuous, V common verb phrases, travelling, P sentence rhythm.			
7	9B - Working undercover.		G present continuous or present simple? V clothes.			
8	Practical English: Would you like to come?		Offers and invitations: Would you like..? Sentence rhythm.			
9	10A - Is there really a monster?		G there's a / there are some, V hotels, in, on, under.			
10	10B - Before they were famous... and after.		G past simple, Be, V in, at, on, P was and were, sentence rhythm.			
11	11A - It changed my life.		G past simple, regular verbs, V regular verbs, P regular verbs past simple endings.			
12	11B - Life in a day.		G past simple irregular verbs, do, go, get and have, V verb phrases with do, go, get and have, P sentence rhythm.			
13	Practical English: Is there a bank near here?		Asking for and giving directions. Prepositions of place. Sentence rhythm and polite intonation.			
14	12A Strangers on a train.		G past simple, regular and irregular, V more irregular verbs, P irregular verbs.			
15	12B - A weekend in Venice.		G- present continuous for future, V- future time expressions and P- the letters ea			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】English File - Beginner Student's Book. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

授業名： 解剖学実習Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
安藤 由香里	一般	安藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	演習・実習 1
【授業の概要】 専門職において、評価や臨床推論を行う際に必要な人体の解剖学的知識を強化するために、1年時の解剖学系各科目で学んだ内容について再確認する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験	
【学習目標(到達目標)】 ①専門職にとっての解剖学の意義を述べられる(認知) ②解剖学的知識を強化し、身体運動に関係する諸器官の形態と機能の関係を説明できる(認知) ③ご献体に敬意を抱き、医療人として相応しい真摯な態度で実習を行うことができる(情意)						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	専門職にとっての解剖学とは何か認識する 骨模型を使用しての形状確認				
2	学内解剖学実習(1)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
3	学内解剖学実習(2)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
4	学内解剖学実習(3)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
5	学内解剖学実習(4)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
6	学内解剖学実習(5)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
7	学内解剖学実習(6)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
8	学内解剖学実習(7)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
9	学内解剖学実習(8)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
10	学内解剖学実習(9)	専門職にとって必要な解剖学的知識を再確認する DVDや骨模型を使用して知識の再確認及び定着をはかる				
11	特別講義	(仮題) 解剖学とその臨床応用について				
12	特別講義	(仮題) 解剖学実習で何を学ぶのか				
13	解剖学実習	オリエンテーション 標本の見学 ご献体の見学 体表・筋・血管・神経・内臓・骨・脳神経系の確認 総評 献花式 (予定:詳細は追って伝達)				
14						
15						
期末試験		評価方法	レポート	100%		0%
				0%		0%
【教科書】1年次に購入した解剖学の教科書を使用する						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 運動学Ⅱ(1/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
十文字 雄一	一般	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・月 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 主な骨表示点、筋(起始・停止・走行)、拍動が触れられる動脈、末梢神経、靭帯などを確認し、体表より触診する技術を獲得する。身体運動の基礎となる原理を理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①体表解剖の理解を深める。 ②表層の筋、ランドマーク、動脈、末梢神経、靭帯を触知できる。					考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】		触診・実技が可能な半袖Tシャツ、膝までのハーフパンツ等を用意する				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動学Ⅱ総論	体表解剖とは 体表解剖の必要性について理解する				
2	体表解剖(肩甲帯と肩)①	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
3	体表解剖(肩甲帯と肩)②	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
4	体表解剖(肩甲帯と肩)③	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
5	体表解剖(肘と前腕)①	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
6	体表解剖(肘と前腕)②	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
7	体表解剖(肘と前腕)③	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
8	体表解剖(手関節と手)①	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
9	体表解剖(手関節と手)②	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
10	体表解剖(手関節と手)③	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
11	体表解剖(胸郭・脊柱)①	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
12	体表解剖(胸郭・脊柱)②	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
13	体表解剖(胸郭・脊柱)③	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
14	まとめ	講義の要点を確認する				
15	まとめ	講義の要点を確認する				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	50%	実技試験	50%
				0%		0%
【教科書】改訂第2版「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」青木隆明 監修 MEDICAL VIEW						
【参考書】改訂第2版「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」青木隆明 監修 MEDICAL VIEW						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学(筋の起始・停止)						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名： 運動学Ⅱ(2/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
十文字 雄一	一般	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・月 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 主な骨表示点、筋(起始・停止・走行)、拍動が触れられる動脈、末梢神経、靭帯などを確認し、体表より触診する技術を獲得する。身体運動の基礎となる原理を理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①体表解剖の理解を深める。 ②表層の筋、ランドマーク、動脈、末梢神経、靭帯を触知できる。					考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】		触診・実技が可能な半袖Tシャツ、膝までのハーフパンツ等を用意する				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	体表解剖(股関節と骨盤)①	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
2	体表解剖(股関節と骨盤)②	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
3	体表解剖(股関節と骨盤)③	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
4	体表解剖(膝)①	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
5	体表解剖(膝)②	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
6	体表解剖(膝)③	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
7	体表解剖(下腿と足)①	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
8	体表解剖(下腿と足)②	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
9	体表解剖(下腿と足)③	体表のランドマーク・表層の筋について ランドマークを正しく触知でき、表層の筋が確認できる				
10	まとめ	講義の要点を確認する				
11	まとめ	講義の要点を確認する				
12	姿勢・重心	重心の位置・性差・年齢差・計測法を理解することができる。 基底面と重心の関係が理解できる。				
13	姿勢・重心	姿勢の定義・各種姿勢 構えと体位の違いが理解でき、各姿勢の分類がわかる				
14	姿勢・重心	姿勢観察実習 実習にて各種姿勢および学生間の姿勢を線画にて図示できる				
15	姿勢・重心	姿勢観察実習 実習にて各種姿勢および学生間の姿勢を線画にて図示できる				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	60%	実技試験	40%
				0%		0%
【教科書】改訂第2版「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」青木隆明 監修 MEDICAL VIEW						
【参考書】改訂第2版「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」青木隆明 監修 MEDICAL VIEW						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学(筋の起始・停止)						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名： 運動学Ⅱ(3/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
十文字 雄一	一般	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	後期・火 1	【授業形態・単位】	講義・演習 3	
【授業の概要】 対象者の歩行評価を行う為に、身体運動の基礎となる原理や諸理論を評価し、歩行動作から問題点を抽出する一連の過程を学びます。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①正常歩行で求められる機能を説明できる。 ②歩行動作から逸脱動作を抽出し線画を交え記述できる。 ③観察をもとに仮説を立て立証手段を列記できる。							
【履修上の注意】 スマートホン・タブレット・録画機器などを使用して歩行観察を行います。無い方はご相談ください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 総論		科目概要、本講義の意義、すすめ方の説明 身体運動の基礎、観察と分析の意義				
2	相分けと表記方法 線画の描き方		レポートの書き方、臨床で求められる歩行分析を学びます。 線画(スティックピクチャー)の描き方、スマートホンの利用方法				
3	健常歩行の前提条件 歩行周期		ヒトの歩容(歩き方)の特徴をを学びます。 健常歩行、正常とは、歩幅、歩隔、歩行周期、各相の役割・機能				
4	パッセンジャーとロコモーター①		パッセンジャー(主に上半身)の役割・機能について学びます。 歩行観察				
5	パッセンジャーとロコモーター②		ロコモーターの4つの機能について学びます。 歩行観察				
6	パッセンジャーとロコモーター③		ロコモーターの4つの機能について学びます。 歩行観察				
7	パッセンジャーとロコモーター④		ロコモーターの4つの機能について学びます。 歩行観察				
8	パッセンジャーとロコモーター⑤		ロコモーターの4つの機能について学びます。 歩行観察				
9	各相の運動学と運動力学 各関節の詳細		歩行における周期・機能・役割のまとめ 運動力学的解釈と各関節の詳細について学びます。				
10	歩行の指標		歩容以外の指標について学びます。 歩行速度、ステップ、ストライドを計測しケージデンスを求めます。				
11	歩行観察・歩行分析		歩行観察、解釈(機能・役割の喪失) 歩行分析(原因の仮説立案、立証手段の検討)				
12	歩行観察・歩行分析		歩行観察、解釈(機能・役割の喪失) 歩行分析(原因の仮説立案、立証手段の検討)				
13	歩行観察・歩行分析		歩行観察、解釈(機能・役割の喪失) 歩行分析(原因の仮説立案、立証手段の検討)				
14	歩行観察・歩行分析		歩行観察、解釈(機能・役割の喪失) 歩行分析(原因の仮説立案、立証手段の検討)				
15	まとめ		まとめ				
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	60%	レポート	40%
					0%		0%
【教科書】観察による歩行分析(医学書院)							
【参考書】改訂第2版 臨床歩行分析ワークブック(メジカルビュー社)							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】運動学(正常歩行)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 人間発達学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
田中 絹代	肢体不自由児 施設 22年勤務	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 新生児から高齢者まで広範にわたるリハビリテーションの対象者の支援につながるため、人間発達の過程を体系的(年齢別、および領域別)に学習する					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①人間の発達をライフサイクルという視点に立って理解し、各発達時期の特徴について説明できる ②身体、運動、認知、心理、社会性などの領域別の発達過程と特徴、および領域間の関連性を理解し、説明できる					知識・理解 態度・志向性 論理的思考力 態度・志向性	
【履修上の注意】 講義中は頻繁に発言を求めます。予習と復習を怠らないこと						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	総論	人間発達について、発達要因、基本原則、臨界期などの視点から説明できる 人間の発達領域、発達段階について理解し、説明できる				
2	人間発達の諸理論	フロイト、エリクソン、ピアジェなどの発達理論を理解し、説明できる				
3	人間発達の見方と発達検査	人間発達の見方を理解し、説明できる 発達検査の進め方の概要を理解し、説明できる				
4	胎児期・新生児期の発達	胎児期・新生児期の正常発達についてその発達学的特徴を理解し 説明できる				
5	乳児期の発達	乳児期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的 特徴を理解し、説明できる				
6	幼児期の発達	幼児期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的 特徴を理解し、説明できる				
7	学童期・青年期の発達	学童期と青年期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の 発達学的特徴を理解し、説明できる				
8	成人期・老年期の発達の発達	成人期と老年期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の 発達学的特徴を理解し、説明できる				
9	身体構造と運動機能の発達①	身体構造の発達の概要を理解し、説明できる 出生から歩行獲得までの粗大運動の発達過程を理解し、説明できる				
10	身体構造と運動機能の発達②	原始反射と姿勢反応の名称、出現・統合時期、統合中枢について説明できる				
11	身体構造と運動機能の発達③	手の巧緻機能の発達過程を理解し、説明できる				
12	認知機能・言語の発達	感覚・知覚・認知機能の獲得過程と発達について理解し、説明できる 言語機能の獲得過程と発達について理解し、説明できる				
13	情緒・社会性・ADL・遊びの発達	各発達段階における情緒・社会性の発達を理解し、説明できる ADL、遊びの発達過程について理解し、説明できる				
14	脳・神経機能、内部機能の発達	脳の構造と機能の発達過程について理解し、説明できる 発達に伴う内臓系器官の変化について理解し、説明できる				
15	人間発達のまとめ	人間発達過程を年齢別、および領域別に見直し、体系的に説明できる				
期末 試験	前期末試験	評価方法	筆記試験	70%	レポート	10%
			受講態度	20%		0%
【教科書】リハビリテーションのための人間発達(第2版) 大城昌平 メディカルプレス						
【参考書】適時紹介します						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 提出レポートの作成(2回を予定)						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 病理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
田村 浩一	一般	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 1・2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 「病気ってなに?」「人はなぜ病気になるの?」「病気になるとどうなるの?」ということ を解き明かすのが病理学です。「病気と正常はどこが違うの?」「なぜ違いが出る の?」を考えながら病気について学びましょう。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 「病気ってなに?」「人はなぜ病気になるの?」「病気になるとどうなるの?」ということ を解き明かすのが病理学です。「病気と正常はどこが違うの?」「なぜ違いが出る の?」を考えながら病気について学びましょう。						
【履修上の注意】 授業で得た知識をもとに卒業までに「自分で」本を読んで必要な知識を身に着けるようにして下さい。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	病因論	イントロダクション:病気ってなに? ヒトはなぜ病気にかかるの?				
2	遺伝子異常と発生発達異常	遺伝子の異常で病気になるしくみを知ろう 遺伝性疾患と先天性奇形は、どこが違う?				
3	細胞傷害と修復(1)	身体の傷はどうやって治る? 完全に元通りに治せない場合の「修復」のしかたは?				
4	細胞傷害と修復(2)	組織が死んだあとはどうなるの? 肥大や萎縮と修復の関係を知ろう				
5	代謝障害(1)	物質の代謝がうまくいなくなるしくみを考えよう あなた、貧血はありませんか?				
6	代謝障害(2)	糖尿病ってどんな病気? 実は赤ちゃんの時から進んでいる、動脈硬化のお話				
7	循環障害(1)	血の巡りが悪いパターンにはどんなものがある? 心筋梗塞はなぜ起こる?				
8	循環障害(2)	エコミークラス症候群はなぜ起こるの? 医学的というショックとは?				
9	炎症(1)	炎症は身体の防御反応!? サイトカインってなに?				
10	炎症(2)	急性炎症と慢性炎症のちがいを知ろう 免疫のしくみを知ろう				
11	炎症(3)	花粉症はありませんか?アレルギーについて知っておかねばならないこと 自己免疫疾患ってどんな病気?				
12	腫瘍(1)	そもそも腫瘍って何だ? 腫瘍についてのさまざまな用語を知ろう				
13	腫瘍(2)	癌(がん)と肉腫の違いは? 悪性腫瘍の特徴を説明できますか?				
14	腫瘍(3)	どうしてがんになるの? 腫瘍の病理診断(腫瘍の写真をみてみよう)				
15	まとめ	病理(細胞診・組織診・病理解剖)で何がわかるの? 病理診断について知っておかねばならないこと				
期末 試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0% 0%
【教科書】図解入門よくわかる病理学の基本としくみ(秀和システム),図解入門よくわかる病理診断学の基本としくみ(秀和システム)						
【参考書】シンプル病理学 改訂第6版 笹野公伸他(南江堂)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 臨床心理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
吉田 久美, 薄井俊介		一般	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 心理学的な側面から「ひと」を理解する学問です。「ひと」の心理について学びを深め、実践的な介入技法を学ぶことでリハビリテーションの効果をより高めるコツ				【受講して得られる力】 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 論理的思考力			
【学習目標(到達目標)】 ①リハビリテーションに活用できる臨床心理学の基礎知識を身につけられる。 ②臨床心理学で学んだ知識・技術を実践に結びつけることができる。							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	心の構造 (吉田)	臨床心理学の概要について学び、リハビリテーションにおける有用性について理解できる。					
2	防衛機制① (吉田)	防衛機制について学び、リハビリテーション中の対応について理解することができる。(抑圧・合理化・投影・同一視・昇華など)					
3	防衛機制② (吉田)	防衛機制について学び、リハビリテーション中の対応について理解することができる。(抑圧・合理化・投影・同一視・昇華など)					
4	防衛機制③ (吉田)	防衛機制について学び、リハビリテーション中の対応について理解することができる。(抑圧・合理化・投影・同一視・昇華など)					
5	心理検査法① (薄井)	臨床心理学領域で用いられる心理検査法(投影法)について学び、リハビリテーションへの活用法が理解できる。					
6	心理検査法② (薄井)	臨床心理学領域で用いられる心理検査法(質問紙法)について学び、リハビリテーションへの活用法が理解できる。					
7	心理検査法③ (薄井)	臨床心理学領域で用いられる心理検査法(知能検査・作業検査法)について学び、リハビリテーションへの活用法が理解できる。					
8	心理療法① (吉田)	臨床心理学領域で用いられる各種心理療法(森田療法・自律訓練法・精神分析療法)について理解することができる。					
9	心理療法② (吉田)	臨床心理学領域で用いられる各種心理療法(認知療法・行動療法・認知行動療法)について理解することができる。					
10	心理療法③ (吉田)	臨床心理学領域で用いられる各種心理療法(自律訓練法・心理劇・バイオフィードバック)について理解することができる。					
11	治療的応用① (吉田)	臨床心理学の知識を使ってリハビリテーションの効果を最大限に出すためのコツ、効果的な学習法について学ぶ。					
12	治療的応用② (吉田)	臨床心理学の知識を使ってリハビリテーションの効果を最大限に出すためのコツ、効果的な学習法について学ぶ。					
13	治療的応用③ (吉田)	臨床心理学の知識を使って事例演習を行う。実践的なコミュニケーション技術を身につける。					
14	面接 (吉田)	面接時の環境設定、面接の内容、面接時の心理的变化について理解できる。転移・逆転移について理解できる。					
15	障害受容 (吉田)	障害受容の過程と具体的な心理学的介入について理解できる。					
期末試験	前期期末試験	評価方法	受講態度	20%		0%	
			筆記試験	80%		0%	
【教科書】特に指定しません							
【参考書】①心理学のすべてがわかる本 ナツメ社, ②カラー徹底図解 心理学 新星出版社							
【履修上の注意】演習には積極的に参加して学びを深め、実習に役立ててください。							
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】				教員室にて
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】				教員室にて

授業名： 内科学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
遠藤 敏裕	一般	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・火 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 内科学を系統立て、各種疾患及び治療法に対する理解を深め、以後のリハビリテーションに関わる際の基礎知識として役立てることを目的とする。					【受講して得られる力】 知識・理解 問題解決力 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①疾患・治療に関する知識を身につけ、この講義を以後の専門科目へと役立てる。						
【履修上の注意】 内臓系解剖学をしっかりと勉強してください						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	内科学総論		診療の基本・診断と治療について			
2	内科学総論②		主な症候について理解を深める			
3	呼吸器総論		免疫疾患の概要について理解を深める			
4	呼吸器総論		呼吸器疾患について理解する			
5	循環器総論		呼吸器疾患について理解する			
6	循環器総論		ウイルス疾患について理解を深める			
7	消化管疾患		消化器疾患について理解する			
8	消化管疾患		消化器の各種疾患について理解を深める			
9	肝・胆・膵疾患		肝・胆・膵の各種疾患について理解を深める			
10	肝・胆・膵疾患		肝・胆・膵の各種疾患について理解を深める			
11	神経疾患総論		神経疾患の概要について理解を深める			
12	神経疾患総論		神経疾患各疾患:脳血管障害について理解を深める			
13	代謝性疾患		代謝性疾患の概要について理解を深める			
14	代謝性疾患		代謝性疾患について理解を深める			
15	まとめ		まとめ			
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】なるほどなっとく内科学(南山堂)						
【参考書】メディカルスタッフのための内科学 第4版(医学出版)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】復習をきちんとすること。授業中は良く話を聞くこと						
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】 教員室にて	

授業名： 内科学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
橋本 雅郎	一般	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・月 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 内科学を系統立て、各種疾患及び治療法に対する理解を深め、以後のリハビリテーションに関わる際の基礎知識として役立てることを目的とする。					【受講して得られる力】 知識・理解	
【学習目標(到達目標)】 ①疾患・治療に関する知識を身につけ、この講義を以後の専門科目へと役立てる。						
【履修上の注意】 配布資料をそろえて持参してください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	内分泌疾患①		主な内分泌疾患の概念について理解する。 主な内分泌疾患の概念について概要を説明できる。			
2	内分泌疾患②		症候について理解する。 症候について概要を説明できる。			
3	内分泌疾患③		検査と治療法について理解する。 検査と治療法について概要を説明できる。			
4	腎・泌尿器疾患①		主な腎・泌尿器疾患の概念について理解する。 主な腎・泌尿器疾患の概念について概要を説明できる。			
5	腎・泌尿器疾患②		症候について理解する。 症候について概要を説明できる。			
6	腎・泌尿器疾患③		検査と治療法について理解する。 検査と治療法について概要を説明できる。			
7	血液疾患①		主な血液疾患の概念について理解する。 主な血液疾患の概念について概要を説明できる。			
8	血液疾患②		症候について理解する。 症候について概要を説明できる。			
9	血液疾患③		検査と治療法について理解する。 検査と治療法について概要を説明できる。			
10	膠原病・アレルギー疾患①		主な膠原病・アレルギー疾患の概念について理解する 主な膠原病・アレルギー疾患の概念について概要を説明できる。			
11	膠原病・アレルギー疾患②		症候について理解する。 症候について概要を説明できる。			
12	膠原病・アレルギー疾患③		検査と治療法について理解する 検査と治療法について概要を説明できる。			
13	感染症①		主な感染症の概念について理解する 主な感染症の概念について概要を説明できる。			
14	感染症②		症候について理解する。 症候について概要を説明できる。			
15	感染症③		検査と治療法について理解する。 検査と治療法について概要を説明できる。			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
				受講態度	0%	0%
【教科書】 なるほどなっとく内科学(南山堂)						
【参考書】 メディカルスタッフのための内科学 第4版(医学出版)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			各授業のテーマの範囲について事前に教科書を読んでおく。			
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 整形外科学(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
遠藤 敏裕	一般	安藤	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・水 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 整形外科疾患対象者の評価・治療を行う際に必要な運動器疾患のメカニズムを理解する。整形外科的診断の種類・方法・治療法を学ぶ。特にCT像, MRI像, 単純X線等の画像診断を理解する					【受講して得られる力】 知識・理解 統合的学習体験 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】 ①筋・骨格系の構造とメカニズムについて説明できる ②整形外科的診断法を具体的に説明が出来る ③整形外科的疾患を分析しわかりやすく説明が出来る						
【履修上の注意】 解剖学が基本の学問なので筋骨格系解剖学の知識は必須です						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	コースオリエンテーション	授業の進め方, 成績の評定方法について説明する 整形外科疾患の領域の概略について説明する				
2	骨関節の構造と機能	骨関節の構造と機能を理解します。 関節、骨の形態、分類				
3	診察法①	病歴の聴取、視診、触診、動きの診かたを理解します。 視診、触診、四肢の計測				
4	診察法②	四肢の診察法を理解します。 関節可動域、徒手筋力テスト、深部腱反射、知覚検査、疼痛検査				
5	診察法③	脊椎の診察法を理解します。 脊椎全体、頸椎、腰椎				
6	変形性関節症	変形性関節症、ヘバーデン結節を理解します。 変形性股関節症、変形性膝関節症				
7	関節リウマチ	関節リウマチについて理解します。 疫学、発生機序・頻度、診断基準、症状、分類、治療				
8	感染性骨関節疾患	感染性骨関節疾患について理解します。 急性・慢性化膿性骨髄炎、化膿性骨髄炎				
9	末梢神経障害①	末梢神経障害について理解します。 神経障害分類、神経損傷分類、神経損傷の原因				
10	末梢神経障害②	末梢神経障害について理解します。 末梢神経に関わる症候群、神経麻痺				
11	骨粗鬆症	骨粗鬆症について理解します。 定義、原因・病態、分類、症状、治療				
12	代謝性骨疾患	代謝性疾患について理解します。 くる病・骨軟化症、副甲状腺機能亢進(低下)症、結晶沈着製関節炎				
13	腫瘍①	腫瘍について理解します。 良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍				
14	腫瘍②	腫瘍について理解します。 転移性骨腫瘍・軟部腫瘍、骨腫瘍類似疾患・骨系統疾患				
15	まとめ	まとめ				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】Visual NAVI 整形外科学(メジカルビュー社)						
【参考書】標準整形外科学 第13版(医学書院)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖/生理/運動学等の基礎医学の復習を行う						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

授業名： 整形外科学(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
遠藤 敏裕	一般	安藤	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・水 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 整形外科疾患患者の評価や治療を行うために必要な運動器疾患の機序を理解し、また整形外科的診断法の種類や方法および治療法を学ぶ					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】 ①筋・骨格系の機能と構造を述べる事が出来る。 ②整形外科的診察法を具体的に述べる事が出来る。 ③代表的な整形外科疾患を分類し説明する事が出来る。						
【履修上の注意】 解剖学が基本の学問なので筋骨格系解剖学の知識は必須です						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	骨壊死		骨壊死の原因及び症状について理解する 骨壊死外科的処置の名称を理解する			
2	外傷のプライマリ・ケア		外傷・プライマリ・ケアの原因及び症状について理解する 外傷・プライマリ・ケアの外科的処置の名称を理解する			
3	上肢の骨折と脱臼		上肢の骨折や脱臼の原因及び症状について理解する 上肢の骨折や脱臼の外科的処置の名称を理解する			
4	骨盤・下肢の骨折		骨盤・下肢の骨折の原因及び症状について理解する 骨盤・下肢の骨折の外科的処置の名称を理解する			
5	頸椎・胸椎疾患		頸椎・胸椎疾患の原因及び症状について理解する 頸椎・胸椎疾患の外科的処置の名称を理解する			
6	腰椎疾患		腰椎疾患の原因及び症状について理解する 腰椎疾患の外科的処置の名称を理解する			
7	脊髄腫瘍・脊髄の炎症		脊髄腫瘍・炎症の原因及び症状について理解する 脊髄腫瘍の外科的処置の名称を理解する			
8	脊椎の外傷・脊髄損傷		脊椎の外傷の原因及び症状について理解する 脊髄損傷の原因症状について理解する			
9	小児股関節疾患		小児股関節疾患の原因及び症状について理解する 小児股関節疾患の外科的処置の名称を理解する			
10	膝関節疾患		膝関節疾患の原因及び症状について理解する 膝関節疾患の外科的処置の名称を理解する			
11	足の疾患		足の疾患の原因及び症状について理解する 足の疾患の保存療法と外科的処置について理解する			
12	肩・肘関節疾患		肩・肘関節疾患の原因及び症状について理解する 肩・肘関節疾患の外科的処置の名称を理解する			
13	手の疾患		手の疾患の原因及び症状について理解する 手の疾患の保存療法と外科的処置の名称を理解する			
14	軟部組織疾患		軟部組織疾患の原因及び症状について理解する 軟部組織疾患の外科的処置の名称を理解する			
15	まとめ		まとめ			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】Visual NAVI 整形外科学(メジカルビュー社)						
【参考書】標準整形外科学 第13版(医学書院)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 神経内科学(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
佐藤 光夫, 橋本 雅郎	一般	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・水 4, 5	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 神経内科学についての一般的知識を得ること.					【受講して得られる力】 知識・理解	
【学習目標(到達目標)】 ①試験に合格することが目標ではなく、疾患の病態について理解を深めることが目標であり、知識を自分のものとする。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動麻痺, 錐体路徴候, 筋萎縮 (橋本)	随意運動の障害について理解する。				
2	錐体外路徴候, 不随意運動 (橋本)	錐体外路徴候について理解する。				
3	神経学的検査法 (佐藤)	X線検査, CT検査, MRI検査の目的と意義を理解する				
4	神経学的検査法 (佐藤)	脳血管撮影, 脳循環, 等の検査の目的と意義を理解する				
5	運動失調 (橋本)	運動失調について理解する。				
6	感覚障害 (橋本)	感覚障害について理解する。				
7	神経学的検査法・意識障害, 脳死, 植物状態 (佐藤)	神経学的検査法における各疾患の診断上の意義を理解する。 意識障害, 脳死, 植物状態の病態を理解する。				
8	頭痛, めまい, 失神・脳神経外科領域の疾患 (佐藤)	頭痛, めまい, 失神を来す疾患と病態について理解する。 脳神経外科領域の疾患にみられる病態、症状を理解する。				
9	記憶障害 (橋本)	記憶障害について理解する。				
10	注意障害 (橋本)	注意障害について理解する。				
11	脳血管障害 (佐藤)	脳卒中の病態, 治療を理解する。				
12	脳血管障害 (佐藤)	脳卒中の病態, 治療を理解する。				
13	脊髄疾患の理学療法 (橋本)	脊髄疾患とその理学療法について理解する。				
14	脳腫瘍, 外傷性脳損傷 (佐藤)	脳腫瘍の種類と特徴を理解する				
15	脊髄疾患 (佐藤)	脊椎・脊髄疾患について理解を深める				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)						
【参考書】 その都度, 紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 不明な点を翌日に持ち越さない姿勢で学習すること。						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 神経内科学(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
佐藤 光夫, 橋本 雅郎		一般	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
				【曜日・コマ】	後期・水 4, 5	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 神経内科学についての一般的知識を得ること.					【受講して得られる力】 知識・理解		
【学習目標(到達目標)】 ①試験に合格することが目標ではなく, 疾患の病態について理解を深めることが目標であり, 知識を自分のものとする.							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	末梢神経障害と理学療法 (橋本)		感覚障害と理学療法について理解する.				
2	末梢神経疾患・てんかん (佐藤)		末梢神経疾患・てんかんの病態を理解する.				
3	感染性疾患, 廃用症候群と誤用症候群・合併症 (佐藤)		各種中枢神経感染症の特徴と治療を理解する. リハビリテーションにおける合併症について病態を理解する.				
4	神経疾患に多い合併症 (橋本)		神経疾患に多い合併症について理解する.				
5	記憶注意障害の評価と リハビリテーション (橋本)		記憶障害, 注意障害の評価とリハビリテーションについて理解する.				
6	認知症 (佐藤)		アルツハイマー型認知症をはじめとする各認知症を理解する				
7	変性疾患, 脱髄疾患 (佐藤)		変性疾患・脱髄疾患の病態と症状を理解する				
8	高次脳機能障害と リハビリテーション① (橋本)		失認の評価とリハビリテーションについて理解する.				
9	高次脳機能障害と リハビリテーション② (橋本)		失行, 遂行機能障害の評価とリハビリテーションについて理解する				
10	錐体外路の変性疾患① (佐藤)		パーキンソン病の病態と治療を理解する				
11	錐体外路の変性疾患② (佐藤)		パーキンソニズムを来す疾患を理解する 各不随意運動の特徴とメカニズムを理解する				
12	変性疾患, 脱髄疾患と理学療法 (橋本)		変性疾患, 脱髄疾患と理学療法について理解する				
13	錐体外路の変性疾患と理学療法 (橋本)		錐体外路の変性疾患と理学療法について理解する				
14	筋疾患 (佐藤)		筋ジストロフィーなどの筋疾患の病態を理解する				
15	中毒性疾患, 栄養欠乏による神経疾患 小児神経疾患, 排尿疾患(佐藤)		中毒, 栄養欠乏に伴う神経疾患を理解する 小児神経疾患を理解する				
期末 試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	90%		0%
				受講態度	10%		0%
【教科書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)							
【参考書】 その都度, 紹介します.							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 不明な点を翌日に持ち越さない姿勢で学習すること.							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 精神医学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
柳沼 典正	一般	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 PT、OTにおいて、精神医学を学ぶことは、必要不可欠である。精神医学全般について、総論では、歴史、症状、診断、評価を。各論では、各種精神疾患について学習していく。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①総論では、精神医学の歴史、成因、症状、診断、評価について学習する。 ②各論では、それぞれの精神疾患について学習する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	精神医学総論1		精神障害の概念、歴史などを概観する。 精神障害の成因と分類について。精神機能の障害と症状について。				
2	精神医学総論2		感情、意志、自我意識についてとその障害について。 思考の障害、妄想について。精神状態像について。				
3	精神医学総論3		精神障害の診断と評価。 心理検査法。				
4	脳器質性精神障害		認知症の定義と分類について。 その他の疾患について。				
5	症状性精神障害		症状性精神障害の定義と主な疾患。 アルコール依存症、薬物依存について。				
6	てんかん、統合失調症1		てんかんについて。 統合失調症の概要と3タイプについて。				
7	統合失調症2		基本症状、診断、治療、リハビリテーション。				
8	気分(感情)障害		うつ病、躁うつ病の症状、治療、援助、リハビリテーション。				
9	神経症性障害		不安障害、ストレス関連障害、身体表現性障害。 摂食障害、不眠症、性関連障害。				
10	パーソナリティ障害		パーソナリティ障害の各型とギャンブル依存、性同一性障害。 精神遅滞、ダウン症候群を中心に。医療とリハビリテーション。				
11	広汎性発達障害		特異的発達障害、広汎性発達障害の医療とリハビリテーション。 リエゾン精神医学とは。心身医学とは。ライフサイクルにおける精神医学。				
12	治療とリハビリテーション		精神障害の治療とリハビリテーション。 薬物療法、行動療法。				
13	福祉、職業リハビリテーション		精神障害者の処遇の歴史。 精神保健福祉法と障害者自立支援法について。ケアマネジメント。				
14	社会・文化とメンタルヘルス		学校のメンタルヘルス(いじめ、不登校など)。 職場のメンタルヘルス。家庭のメンタルヘルス。				
15	最終まとめ		講義の要点について確認する				
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%	
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】			教員室にて

授業名： 小児科学概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
安中 聡一	一般	安中	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	8(15)	
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 新生児期～小児期の発達の過程を踏まえ、小児期における代表的な疾患や障害の特性、理学療法の基本的な考え方について講義を中心に概説する。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】							
①発達段階と理学療法の関連性について概要を説明できる。 ②主な疾患および障害の特徴を説明できる。 ③主な疾患や障害に対する理学療法の基本的な考え方について説明できる。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	総論		1. 発達系理学療法の対象(年齢、主な障害)について解説する。 2. 障害児・者療育における理学療法士の役割について解説する。				
2	理学療法における発達の視点		1. 運動発達の視点と理学療法の関連性について解説する。 2. 精神発達の視点と理学療法の関連性について解説する。				
3	知的障害(含、Down症候群)		1. 知的能力障害の概要(概念、疫学、障害特性)について解説する。 2. 理学療法の考え方について解説する。				
4	発達障害		1. 発達障害(ASD, ADHD, SLD, DCD)の概要と障害特性について解説する。 2. 発達障害を有する患者への配慮と対応について解説する。				
5	先天奇形(二分脊椎を中心に)		1. 病態と障害特性(二分脊椎、小児期の骨関節疾患)について解説する。 2. 理学療法の考え方について解説する。				
6	筋ジストロフィー症		1. 病態と障害特性について解説する。 2. 理学療法の考え方について解説する。				
7	脳性麻痺・重症心身障害		1. 病態と障害特性について解説する。 2. 理学療法の考え方について解説する。				
8	ハイリスク新生児		1. ハイリスク新生児と新生児集中治療室について解説する。 2. Developmental careと理学療法の概要について解説する。				
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】特に指定しない							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業内容からポイントとなるところを復習してください。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】		教員室にて

授業名: 老年学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
橋本 雅郎	一般	橋本	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 老年医学, 高齢者医療について学習し, 高齢者リハビリテーションに求められる知識と考え方を学ぶ.					【受講して得られる力】 知識・理解	
【学習目標(到達目標)】 ①高齢者を取り巻く環境を踏まえ, ヒトの生理・運動・精神機能の加齢変化を知り, 高齢者の疾病について概要を説明できるようにする.						
【履修上の注意】 内科学の教科書を持参してください.						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	老化と老年病	老化と高齢者の疾患について理解する. 老化と高齢者の疾患の概要について説明できる.				
2	加齢に伴う変化	高齢者の生理的機能と運動・精神機能の加齢変化について理解する. 高齢者の生理的機能と運動・精神機能の加齢変化の概要について説明できる.				
3	高齢者の機能評価	高齢者の全体像をとらえる重要性について理解する. 高齢者の全体像をとらえる重要性について説明できる.				
4	高齢者に特有な症候	高齢者に多い症候と老年症候群について理解する. 高齢者に多い症候と老年症候群について概要を説明できる.				
5	骨・運動器疾患	高齢者の骨・運動器疾患について理解する. 高齢者の骨・運動器疾患について概要を説明できる.				
6	神経疾患	高齢者の神経疾患を老化と関連させて理解する. 高齢者の神経疾患と老化の関連について説明できる.				
7	精神疾患	高齢者の精神疾患について理解する. 高齢者の精神疾患について概要を説明できる.				
8	循環器疾患	高齢者の循環器疾患について理解する. 高齢者の循環器疾患について概要を説明できる.				
9	呼吸器疾患	高齢者の呼吸器疾患について理解する. 高齢者の呼吸器疾患について概要を説明できる.				
10	消化器疾患	高齢者の消化器疾患について理解する. 高齢者の消化器疾患について概要を説明できる.				
11	内分泌・代謝疾患	高齢者の内分泌・代謝疾患について理解する. 高齢者の内分泌・代謝疾患について概要を説明できる.				
12	血液免疫疾患	高齢者の血液・免疫疾患について理解する. 高齢者の血液・免疫疾患について概要を説明できる.				
13	腎・泌尿器疾患	高齢者の腎臓・泌尿器疾患について理解する. 高齢者の腎臓・泌尿器疾患について概要を説明できる.				
14	感染症	高齢者の感染症について理解する. 高齢者の感染症について概要を説明できる.				
15	高齢者を取り巻く環境	高齢者を取り巻く環境を踏まえ, 高齢者のリハビリテーションについて理解する. 高齢者を取り巻く環境を踏まえ, 高齢者のリハビリテーションについて概要を説明できる.				
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版 (医学書院)						
【参考書】特に指定しない.						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマの範囲について事前に教科書を読んでおく.						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 薬理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
田崎 政則	一般	安藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 内科的治療の柱である「薬物療法」についての基礎的知識を学ぶ 臨床でよく用いられる代表的薬物の薬理作用を理解する					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①臨床でよく用いられる薬物の種類とその特性がわかる ②体内における薬物動態が理解できる ③薬物による生体反応のしくみと薬物の作用機序が理解できる						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	薬理学の基礎知識①	薬理学の概要と、薬に関する法令について理解し、説明できるようになる。				
2	薬理学の基礎知識②	薬物の作用と、その効果に影響を及ぼす要因について理解する。				
3	薬理学の基礎知識③	薬物の適用と、薬物体内動態について理解する。				
4	薬理学の基礎知識④	薬物の副作用について理解する。				
5	薬理学の基礎知識⑤	医薬品の処方箋、剤形、取扱い、計量、新薬、ジェネリック薬についての知識も修得する。				
6	末梢神経作用薬	末梢神経作用薬について学ぶ。				
7	中枢神経作用薬	中枢神経作用薬について学ぶ。				
8	心臓血管系・血液造血系作用薬	心臓血管系・血液造血系作用薬について学ぶ。				
9	呼吸器系・消化器系作用薬	呼吸器系・消化器系作用薬について学ぶ。				
10	物質代謝作用薬	物質代謝作用薬について学ぶ。				
11	生殖器系作用薬・オータコイド	生殖器系作用薬・オータコイドについて学ぶ。				
12	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬・漢方について学ぶ。				
13	生物学的製剤・診断用薬、薬物中毒	生物学的製剤・診断用薬および薬物中毒について学ぶ。				
14	国家試験対策	過去の国家試験問題から病態および薬理学系の問題を抽出し解説する。				
15	内容のまとめ	これまでの内容を振り返り、理解を深める。				
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 系統看護学講座 専門分野						
【参考書】「シンプル薬理学」改訂第4版 南江堂						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】 科目責任者 【質問方法】 教員室にて						

授業名： 基礎理学療法Ⅱ（見学実習含む）

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2							
各施設実習指導者 安藤 由香里		クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)						
				【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 1						
【授業の概要】 リハビリテーション医学の一翼を担う理学療法士の役割を理解し、リハビリテーション理念の理解をさらに深め、専門家としての態度を養成するための一助とする。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル								
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法士になることへの自己動機を確認し、今後の学習意欲の向上に結びつける ②社会人及び医療従事者としての責任的行動を心がける。 ③病院・施設における理学療法士の臨床業務(評価・治療)の内容を把握する。 ④主な理学療法対象疾患の具体的なイメージを持てる。													
【履修上の注意】													
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)											
1	実習のオリエンテーション (安藤)	施設見学の目的を理解する											
2	医療施設及び福祉施設見学1日目①	見学実習では、上記の学習目標(到達目標)を達成すること以外に、対象者、見学実習指導者、施設の職員との関係において適切な態度や行動を取ることが求められる。コミュニケーションを取る上で、どのようなことに注意すべきか(個人情報保護を含む)について理解しておくこと。											
3	医療施設及び福祉施設見学1日目②												
4	医療施設及び福祉施設見学1日目③												
5	医療施設及び福祉施設見学1日目④												
6	医療施設及び福祉施設見学2日目①												
7	医療施設及び福祉施設見学2日目②												
8	医療施設及び福祉施設見学2日目③												
9	医療施設及び福祉施設見学2日目④												
10	医療施設及び福祉施設見学3日目①												
11	医療施設及び福祉施設見学3日目②												
12	医療施設及び福祉施設見学3日目③												
13	医療施設及び福祉施設見学3日目④												
14	学内報告会①												
15	学内報告会②												
期末試験								評価方法	実習評価 レポート	50% 30%	発表会の結果	20% 0%	
【教科書】実習の手引き													
【参考書】各自、必要なもの													
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎知識の確認、1年次の復習等実習へ向けての準備													
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】教員室にて										

授業名： 理学療法学特論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 がんのリハビリテーション、神経・筋疾患、皮膚障害、ウイメンズ・ヘルスの概要と理学療法に必要な知識と思考・判断過程について学習する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①がん治療の原則とリスク管理について説明することができる。 ②がんのリハビリテーションの必要性について説明することができる。 ③神経・筋疾患・皮膚障害についてそれぞれの特徴を説明することができる。 ④ウイメンズヘルス・メンズヘルスについての概要を説明することができる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	科目のオリエンテーション	この科目の概要を理解する。				
2	がんの総論1	がんの基礎について理解する。 基礎・治療・臨床検査・生命予後の予測について学ぶ。				
3	がんの総論2	がん患者の疼痛管理について理解する。 がん患者の疼痛管理について学ぶ。				
4	リスク管理1	がん患者のリスク管理について理解する。 がん患者のリスクについて学ぶ。(中止基準、骨転移、脳転移、その他)				
5	リスク管理2	がんに伴う合併症・治療による副作用について理解する。 がんに伴う合併症・治療による副作用について学ぶ。				
6	がん患者の評価方法	がん患者の評価方法について理解する。 がん患者の評価方法について学ぶ。				
7	理学療法1	呼吸リハビリテーション・嚥下障害・構音障害・発声障害への対応について理解する。 術前・術後の理学療法について学ぶ。				
8	理学療法2	肩関節可動域制限・リンパ浮腫の理学療法について理解する。 術前・術後の理学療法について学ぶ。				
9	在宅患者・終末期	在宅患者への対応・終末期の対応について理解する。 在宅患者への対応・終末期の対応について学ぶ。				
10	ウイメンズヘルス	Women's Health(ウイメンズヘルス)について理解する。 女性のための健康支援と女性特有の疾患について学ぶ。				
11	メンズヘルス	Men's Health(メンズヘルス)について理解する。 男性のための健康支援と男性特有の疾患について学ぶ。				
12	神経・筋疾患1	神経・筋疾患の特徴と理学療法について理解する。 多発性筋炎・皮膚筋炎、重症筋無力症ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発性根神経障害について学ぶ。				
13	神経・筋疾患2	神経・筋疾患の特徴と理学療法について理解する。 糖尿病神経障害、シャルコー・マリー・トゥース病、顔面神経麻痺、他について学ぶ。				
14	皮膚障害1	褥瘡について基礎と理学療法士の関わりについて理解する。 について学ぶ。				
15	皮膚障害2	熱傷について基礎と理学療法士の関わりについて理解する。 について学ぶ。				
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】がんのリハビリテーションベストプラクティス、金原出版 ・ がん患者のリハビリテーション リスク管理とゴール設定						
【参考書】特になし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】配布資料、講義内容の復習。教科書を読んでPOINTをまとめる力が必要になります。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
理学療法士に必要なコミュニケーションスキルや協調性について学び、また、郡山市障害者福祉センターで行われる健康運動教室に参加します。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 問題解決力 チームで働く力		
【学習目標(到達目標)】						
①ワークを通し、コミュニケーションスキル・協調性について学ぶことができる。						
②ワークを通し、自分の考えをまとめることができる。						
③健康運動教室に参加し、運動の説明、実施をすることができる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	科目オリエンテーション	理学療法士にとってなぜコミュニケーションが重要であるかを講義形式で行う。また、健康運動教室の概要について説明する。				
2	アイスブレイク・自分と向き合うワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 自己受容・自己肯定感・自尊感情				
3	他者を理解するワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 他者理解・バックボーン(背景)・他尊感情				
4	共感を高めるワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 共感的理解				
5	一方向・双方向のコミュニケーション体験ワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 一方向のコミュニケーション・双方向のコミュニケーション				
6	肯定的な聴き方を学ぶワーク(傾聴)	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 肯定的言動・否定的言動・傾聴				
7	ホスピタリティー・マインドを育むワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: ホスピタリティースキル・ホスピタリティーマインド				
8	自分の伝えたいことを上手に伝えるワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: アサーション・アサーティブ・DESC法				
9	合意形成の大切さに気づくワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 情報の共有・合意形成				
10	リーダーシップを理解するワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: リーダーシップ・メンバーシップ				
11	チーム力を高めるワーク	ワークを通し気付いたことをまとめ、グループで共有する。 キーワード: 目標の共有化・プロセスの共有・助け合える人間関係				
12	健康運動教室事前準備①	各グループに分かれ、実施内容を確認した上で役割分担を行う				
13	健康運動教室事前準備②	話し合いを行いながらグループで各種体操、運動を考案し、指導できるよう準備をする。				
14	健康運動教室①	郡山市障害者福祉センターで健康運動教室に参加する				
15	健康運動教室②	郡山市障害者福祉センターで健康運動教室に参加する 健康運動教室を振り返り、反省を行う				
期末試験	後期期末試験	評価方法	授業への貢献	40%		0%
			筆記試験	60%		0%
【教科書】コミュニケーションと人間関係づくりのためのグループ体験学習ワーク						
【参考書】特になし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 学んだコミュニケーションスキルについて、日常生活にも意識的に活かしてください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 検査・測定演習 I (1/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
十文字 雄一	病院 8年勤務	十文字	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・水 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 理学療法評価を実施するにあたっての検査・測定技術を身につける科目です。 理学療法評価学、理学療法治療学に生かすための重要な技術を修得します。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①バイタルサインの検査を、健常者に適切に行える ②関節可動域の検査を、健常者に適切に行える ③筋力検査・徒手筋力検査を、健常者に適切に行える						
【履修上の注意】 運動しやすい格好で望んでください。実技テストの際は実習着・実習靴を着用してください						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	バイタルサインの評価	意識の判別、血圧・脈拍・呼吸、体温、経皮的酸素飽和度の測定方法を習得する 講義形式の説明と学生同士で演習を行います。				
2		キーワード: JCS、GCS、脈拍を体表から触知できる動脈、呼吸の種類 血圧の種類、Swannの点など。				
3	関節可動域 (ROM)	学習目標 ・関節可動域の定義・目的を理解する ・正常の関節可動域、を覚える ・関節可動域の測定法を習得する ◎講義形式の説明と学生同士で演習を行います				
4						
5						
6						
7		キーワード: 基本的肢位と解剖学的肢位、関節の運動方向、0° 出発肢位 角度計、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」				
8						
9	筋力検査 徒手筋力検査 (MMT)	学習目標 ・筋力検査の目的を理解する ・最大筋力、筋持久力、筋瞬発力の違いを説明できる ・Danielsらによる6段階の徒手筋力検査法を習得する ◎講義形式の説明と学生同士で演習を行います				
10						
11						
12						
13		キーワード: 最大筋力、筋持久力、筋瞬発力、代償動作				
14						
15	確認テスト	ROM・MMTに関して技能の到達度を確認します 基準になるまで、何度も繰り返し実施します。				
期末 試験	前期期末試験	評価方法	実技試験	70%	筆記試験	30%
				0%		0%
【教科書】①理学療法評価学 改訂第6版②新・徒手筋力検査法 原著第9版						
【参考書】PT・OTのための測定評価3MMT-頭部・頸部・上肢第2版 PT・OTのための測定評価4MMT-体幹・下肢第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 実技習得のため繰り返し練習を行ってください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員		【質問方法】 教員室にて		

授業名: 検査・測定演習 I (2/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
十文字 雄一	病院 8年勤務	十文字	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・水 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
理学療法評価を実施するにあたっての検査・測定技術を身につける科目です。理学療法評価学、理学療法治療学に生かすための重要な技術を修得します。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 態度・志向性		
【学習目標(到達目標)】						
①形態測定を、健常者に適切に行える ②片麻痺運動機能検査を、健常者に適切に行える ③感覚・反射検査を健常者に適切に行える						
【履修上の注意】 運動しやすい格好で望んでください。実技テストの際は実習着・実習靴を着用してください						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	確認テスト	ROM・MMTに関して技能の到達度を確認します 基準になるまで、何度も繰り返して実施します。				
2	形態測定 (四肢長・肢節長・周径)	学習目標 ・形態測定の意義、目的、方法を理解する ・四肢長、肢節長、周径の技能を習得する ・形態の異常について考察できる ◎講義形式の説明と学生同士で演習を行います				
3						
4		キーワード: 身長・体重・体格指数・四肢長・肢節長・周径				
5						
6	片麻痺運動機能検査	学習目標 ・末梢性麻痺と中枢性麻痺の回復過程について説明できる ・共同運動、連合反応を説明できる ・Brunnstrom testの概要を説明し、検査を実施、記録できる ・12段階片麻痺テストの概要を説明し、検査を実施、記録できる ・脳卒中機能評価法(SIAS)の概要を説明できる				
7						
8						
9		キーワード: 痙縮、固縮、連合反応、共同運動、Brunnstrom test、12段階片麻痺テスト、脳卒中機能評価法(SIAS)				
10						
11						
12	知覚検査(表在・深部・痛み)	学習目標: 知覚、感覚、認知を区別できる。表在・深部・複合感覚の検査を実施、記録できる				
13		キーワード: 表在感覚、深部感覚、複合感覚、身体感覚分布図				
14	確認テスト	形態測定・片麻痺運動機能検査・知覚検査の技能に関して到達度を確認します				
15		基準になるまで、何度も繰り返して実施します				
期末試験	前期期末試験	評価方法	実技試験	70%	筆記試験	30%
						0%
【教科書】①理学療法評価学 改訂第6版②新・徒手筋力検査法 原著第9版						
【参考書】PT・OTのための測定評価3MMT-頭部・頸部・上肢第2版 PT・OTのための測定評価4MMT-体幹・下肢第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 実技習得のため繰り返し練習を行ってください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員		【質問方法】 教員室にて		

授業名: 検査・測定演習 I (3/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
十文字 雄一	病院 8年勤務	十文字	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	後期・火 2	【授業形態・単位】	講義・演習 3	
【授業の概要】				【受講して得られる力】			
理学療法評価を実施するにあたっての検査・測定技術を身につける科目です。理学療法評価学、理学療法治療学に生かすための重要な技術を修得します。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 態度・志向性			
【学習目標(到達目標)】							
①患者の全体像を把握するための一般的評価事項について説明できる ②深部腱反射、病的反射検査を健常者に対して適切に行える ③バランステスト・協調性検査を健常者に対して適切に行える							
【履修上の注意】 運動しやすい格好で望んでください。実技テストの際は実習着・実習靴を着用してください							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	一般評価事項 問診(病歴・現病)・状態観察		医療情報収集と状態観察の仕方を理解する				
2	一般評価事項 臨床検査・画像検査		血液、尿などの検体検査の目的、基準値、リスク管理や状態把握の繋がりを理解する				
3	反射(深部反射)		深部腱反射について理解し、代表的深部腱反射の検査を実施する				
4	反射(表在・病的反射)		表在反射・病的反射について理解し、代表的な表在、病的反射を実施する				
5	筋トーンス検査		筋トーンスのメカニズムを説明できる。Ashworthのスケールを説明できる				
6	確認		深部腱反射・病的反射についての技能に関して到達度を確認する 基準になるまで、何度も繰り返して実施します				
7	バランス検査 概論・運動戦略		静的・動的バランス、運動戦略について説明できる				
8	バランス検査①		Romberg's試験、Mann試験、片足立ち検査について説明し、行うことができる				
9	バランス検査②		Functional reach test, timed up and go testについて説明し、行うことができる				
10	姿勢反射		姿勢反射について理解し、検査法や病的意義をいえる				
11	協調性検査		協調運動と協調運動障害について説明できる。協調性検査を実施できる				
12	確認		バランス検査・協調性検査についての技能に関して到達度を確認する 基準になるまで、何度も繰り返して実施します				
13	脳神経検査		脳神経機能について理解し、検査法を行うことができる				
14	高次脳検査		高次脳機能障害について理解し、代表的な検査を行うことができる				
15	まとめ		まとめ				
期末 試験	後期期末試験		評価方法	受講態度	30%	筆記試験	30%
				課題の達成度	40%		0%
【教科書】理学療法評価学 改訂第6版							
【参考書】 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 実技習得のため繰り返し練習を行ってください。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 運動療法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 理学療法士の中核となる手段である運動療法の基本的な理論を理解する科目です。運動療法演習、実習につながる重要な内容です。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①各機能低下・能力低下に対する運動療法を知る ②各機能低下・能力低下に対する運動療法の根拠と障害の背景を理解できる ③各運動療法の違いを理解し、適応を知る						
【履修上の注意】 予習・復習を行うよう推奨します。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動療法の概論	運動療法の概要を理解する。運動療法に必要な基礎知識を確認する。				
2	関節可動域制限 に対する運動療法	① 関節可動域制限因子の種類を分類し、違いを説明できる ② エンドフィールについて説明できる ③ ストレッチの種類を分類し、違いを説明できる ④ 関節可動域運動の種類と効果について説明できる 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
3						
4	筋力低下 に対する運動療法	① 筋力低下の原因を分類し、違いを説明できる ② 筋力トレーニングの原則を理解する ③ 筋力トレーニングの種類を分類し、違いを説明できる ④ 筋力トレーニングの効果について説明できる 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
5						
6	持久力 に対する運動療法	① 持久力低下の原因を説明できる ② 持久力の評価について理解する ③ 持久力トレーニングの原則を理解する ④ 持久力トレーニングの種類と効果について説明できる 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
7						
8	中枢神経性運動麻痺 に対する運動療法	中枢神経性麻痺の状態と、それに対応する運動療法の種類を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
9	末梢神経性運動麻痺 に対する運動療法	末梢神経性麻痺の状態と、それに対応する運動療法の種類を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
10	感覚障害 に対する運動療法	感覚障害の状態が理解できる。運動療法の原則、種類を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
11	痛み に対する運動療法	痛みの状態と、それに対応する運動療法の種類、効果を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
12	バランス障害 に対する運動療法	バランス障害の状態と、それに対応する運動療法の種類を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
13	協調性運動障害 に対する運動療法	協調運動障害の状態と、それに対応する運動療法の種類を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
14	姿勢障害 に対する運動療法	姿勢障害の状態と、それに対応する運動療法の考え方を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
15	歩行障害 に対する運動療法	歩行障害に対する運動療法の分類と考え方を理解する 主に教科書とスライドを用いて説明をします				
期末 試験	前期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版						
【参考書】理学療法学ゴールドマスターテキスト2 運動療法学						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書に出てくるキーワード(用語)の意味を理解できるよう自己学習すること						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	金 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 運動療法の基本的な技術を身につけるための科目です。 2年生前期の運動療法で学んだ理論を使って、運動療法を実施していきます。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル	
【学習目標(到達目標)】 ①前期で修得した理論に基づいて、技術と結びつける ②自分の身体の使い方、相手の身体の動かし方を身につける ③運動療法の基本的な技術を身につける						
【履修上の注意】動きやすい服装(運動着・実習着・靴)で実施します。ジーンズズボン不可。スカート不可。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	自・他動関節運動	エンドフィールを感じる。自動・他動運動の違いを感じる。実技演習。 相手の身体を触り、操作する際の注意点を理解し実施する。				
2		基本的な関節に対して関節可動域運動を実施する。				
3	関節モビライゼーション PNF応用ストレッチ	滑り法と離開法の違いを感じる。ストレッチの効果を感じる。 実技演習を行います。				
4		相手の身体を触り、操作する際の注意点を理解し実施する。				
5	ストレッチ(下肢)	上肢の各筋肉・関節包のストレッチングを習得する 【肩の屈筋群、水平屈曲・伸展筋群、外・内旋筋群、内転筋群、関節包】				
6						
7		実技演習を行います。 相手の身体を触り、操作する際の注意点を理解し実施する。				
8						
9		下肢ストレッチングの総復習を行います。 グループにて実技演習をします。				
10	ストレッチ(上肢)	上肢の各筋肉・関節包のストレッチングを習得する。 【肩の屈筋群、水平屈曲・伸展筋群、外・内旋筋群、内転筋群、関節包】				
11						
12		実技演習を行います。 相手の身体を触り、操作する際の注意点を理解し実施する。				
13						
14		上肢ストレッチングの総復習を行います。 グループにて実技演習をします。				
15	確認テスト1	これまでの技術について確認テストを実施します。 (他動関節可動域運動・関節モビライゼーション)				
期末試験	後期期末試験	評価方法	実技試験	40%	筆記試験	30%
			受講態度	10%		0%
【教科書】運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版						
【参考書】理学療法学ゴールドマスターテキスト2 運動療法学						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】前期科目の「運動療法学」の内容を復習し、演習に臨んでください。						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】教員室にて			

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	川崎	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	金 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 2	
【授業の概要】 運動療法の基本的な技術を身につけるための科目です。 2年生前期の運動療法で学んだ理論を使って、運動療法を実施していきます。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル		
【学習目標(到達目標)】 ①前期で修得した理論に基づいて、技術と結びつける ②自分の身体の使い方、相手の身体の動かし方を身につける ③運動療法の基本的な技術を身につける							
【履修上の注意】動きやすい服装(運動着・実習着・靴)で実施します。ジーンズズボン不可。スカート不可。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	確認テスト1		これまでの技術について確認テストを実施します。 (上肢・下肢ストレッチング)				
2	まとめ (関節可動域運動・関節モビライゼーション・ストレッチング)		関節可動域運動、関節モビライゼーション、ストレッチングの手技についてのまとめを行います。				
3			相手の身体を操作する際の注意点についても再確認していきます。				
4	筋カトレーニング(上肢)		上肢の筋カトレーニングを習得する。実技演習を行います。				
5			キーワード: 棘上筋・棘下筋・肩甲下筋 教科書: p237~252				
6	筋カトレーニング(体幹)		体幹の筋カトレーニングを習得する。実技演習を行います。 キーワード: 脊柱起立筋・腹直筋・多裂筋・腹横筋 教科書: p237~252				
7	筋カトレーニング(下肢)		下肢の筋カトレーニングを習得する。実技演習を行います。				
8			キーワード: 腸腰筋・大殿筋・中殿筋・大腿四頭筋・ハムストリングス 教科書: p237~252				
9							
10	バランストレーニング (協調運動障害に対する運動療法)		バランストレーニングを実施します。実技演習を行います。				
11			キーワード: システム理論、運動戦略、運動失調、フランケル体操 教科書: p308~p336				
12	歩行練習 (歩行障害に対する運動療法)		歩行練習を実施します。実技演習を行います。				
13			転倒などのリスク管理を行えるよう確認していきます。				
14	痛みに対する運動療法		痛みの状態と、それに対応する運動療法の種類、効果を確認します。演習を行います。				
15							
期末試験	後期期末試験		評価方法	実技試験 受講態度	40% 10%	筆記試験 0%	
【教科書】運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版							
【参考書】理学療法学ゴールドマスターテキスト2 運動療法学							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】前期科目の「運動療法学」の内容を復習し、演習に臨んでください。							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・金 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 義肢・装具のバイオメカニクスを理解する。切断の種類・手技を理解する。各種義足・義手・装具の種類・名称・適応・チェックアウトを理解する。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①各種義足・義手の名称・基本構造・特徴・チェックアウトを説明できる。 ②切断から理学療法実施までの流れを理解できる。						
【履修上の注意】 1年次 運動学Ⅰの歩行に関する復習をすること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	切断と義肢の基礎知識		切断術とは、切断端について、義肢の種類、選択のしかたを理解する 切断術後のリハビリテーションの流れ			
2	早期義肢装着法		早期義肢装着法の流れと義足処方・適合判定 アライメント			
3	大腿切断・膝離断の基本		大腿切断の断端と大腿義足の特徴 大腿義足のソケット、膝継手			
4	大腿切断・膝義足のアライメント		大腿義足と膝義足のベンチアライメント、スタティックアライメント 大腿義足のダイナミックアライメント			
5	下腿切断・サイム切断の基本		下腿切断の特徴、ソケット サイム切断の特徴、ソケット			
6	下腿義足・サイム義足のアライメント		下腿義足のベンチアライメント、スタティックアライメント 下腿義足のダイナミックアライメント			
7	股離断		股義足の適応と特徴 カナダ式股義足のアライメント			
8	足部切断と足部義足		足部切断の種類 義足ができるまで			
9	下肢切断の評価		下肢切断の評価 幻肢と神経腫			
10	下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法		義足装着前理学療法の概要 切断原因疾患別にみた理学療法の留意点			
11	義足装着理学療法と応用動作		義足装着理学療法の流れを理解する			
12	義手の分類と構造・機能		義手の分類・義手の構造について学ぶ 義手の分類・義手の基本構造がわかる			
13	上肢切断の評価と治療		義手のチェックアウト、リハビリテーションプログラム 上肢切断の理学療法、義手の使用状況			
14	義肢装具の支給体系とチームアプローチ		義肢装具、その他の補装具の支給体系を理解する 切断のリハビリテーションチームと役割を理解する			
15	まとめ		まとめ			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学 (中山書店)						
【参考書】義肢装具のチェックポイント 第8版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 1年次 運動学Ⅰの歩行に関する復習をすること。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
川崎 萌絵	病院 8年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	後期・木 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 義肢・装具のバイオメカニクスを理解する。切断の種類・手技を理解する。各種義足・義手・装具の種類・名称・適応・チェックアウトを理解する。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①装具作成までの流れを理解する ②各種装具の名称・基本構造・特徴・チェックアウトを説明できる ③各種疾患に対する装具の特徴を説明できる							
【履修上の注意】1年次 運動学Ⅰの歩行に関する復習をすること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	装具学総論		装具の基本原則について説明できる キーワード: 三点固定、四点固定の原理				
2	靴型装具と足底装具 ～総論、靴の基本構造～		足部の構造と足部疾患、靴型装具と一般靴の特徴について説明できる キーワード: 足のアーチ、足部の変形				
3	靴型装具と足底装具 ～靴の選び方と特殊構造～		靴の選び方のポイント、特殊構造の特徴についてを説明できる キーワード: ボールジョイント、補高				
4	足底装具		足底装具の目的と適応疾患を説明できる キーワード: 足底挿板、ウェッジ				
5	靴型装具と足底装具 まとめ		靴型装具と足底装具のチェックポイントをまとめる 小テストおよびレポート課題を出題します				
6	下肢装具 ～総論～		下肢装具の基本的構造と各種部品について説明できる キーワード: 正常歩行、病的歩行、継手、3点固定の原理				
7	下肢装具 ～短下肢装具～		短下肢装具の特徴と適応疾患について説明できる キーワード: AFO(金属・プラスチック)、足継手(ダブルクレンザックなど)				
8	下肢装具 ～長下肢装具～		長下肢装具の特徴と適応疾患について説明できる キーワード: KAFO、膝継手の種類(ダイヤルロック、オフセットなど)				
9	下肢装具 ～膝装具～		膝装具の特徴と適応疾患について説明できる キーワード: 膝継手の種類、ACL(PCL)損傷				
10	下肢装具 ～股装具・免荷装具～		膝装具・免荷装具の特徴と適応疾患について説明できる キーワード: 股関節外転保持装具、PTB免荷装具				
11	下肢装具 ～その他～		様々な下肢装具の特徴と適応疾患について説明できる キーワード: デニスブラウン装具、ペルテス病装具				
12	下肢装具 ～まとめ～		下肢装具のチェックポイントをまとめる 小テストおよびレポート課題を出題します				
13	体幹装具		体幹装具の特徴と適応疾患について説明できる キーワード: 頸椎装具、頸胸椎装具、腰仙椎装具、仙腸装具、側弯装具				
14	上肢装具		上肢装具の特徴と適応疾患について説明できる キーワード: 自助具、スプリント、母指の特徴				
15	～まとめ～		体幹および上肢装具のチェックポイントについてまとめる 小テストおよびレポート課題を出題します				
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学 (中山書店)							
【参考書】義肢装具のチェックポイント 第8版							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】具体的なイメージを持って学習できるよう心掛けてください。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 日常生活技術論(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2	
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・金 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 対象者の生活像を把握する為に日常生活活動(ADL)の概念や範囲を理解し、必要な評価とその方法を身につけます。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①疾患のADL動作の特徴を説明することができる。 ②ADL動作の指導、介助方法を説明することができる。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 総論		科目概要、本講義の意義、すすめ方の説明 日常生活活動のイメージを得ます。				
2	ADLの概念と範囲		ADLの概念と範囲を学びます。 ADLの位置付け、APDL、IADL				
3	ADLの概念と範囲		ADLの概念と範囲を学びます。 障害とは。ADL指導、さまざまなADL指導				
4	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 バーセルインデックス				
5	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 バーセルインデックス				
6	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
7	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
8	日常生活の評価		実際に使用することを想定し、ADLの評価法を理解します。 FIM				
9	ADLとQOL		ADLとQOLの関係性について学びます。 HR-QOL、NHR-QOL				
10	ADLと国際分類		国際分類におけるADLについて学びます。 障害分類と生活機能分類				
11	ADLと国際分類		国際分類におけるADLについて学びます。 原因と結果				
12	ADL動作		動作について学びます。 寝返り・起き上がり				
13	ADL動作		動作について学びます。 座位・立ち上がり				
14	ADL動作		動作について学びます。 移乗・移動動作				
15	ADL動作		動作について学びます。 セルフケア				
期末 試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%	
					0%	0%	
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト ADL(洋土社)、脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編](金原出版)							
【参考書】参考になるものがあれば、その都度紹介します。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の復習							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 日常生活技術論(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】理学療法学科	【学年】	2	
十文字 雄一	病院 8年勤務	安藤	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・火 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 対象者の生活像を把握する為に日常生活活動(ADL)の概念や範囲を理解し、必要な評価とその方法を身につけます。				【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①疾患のADL動作の特徴を説明することができる。 ②ADL動作の指導、介助方法を説明することができる。				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力		
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者の身体機能特徴を理解する。			
2	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者のADL動作の特徴を理解する。			
3	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。			
4	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷について機能障害について理解する。			
5	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷患者(四肢麻痺)のADL動作の特徴を理解する。			
6	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷患者(対麻痺)のADL動作の特徴を理解する。			
7	指導と介助方法の基本 パーキンソン病		パーキンソン病患者のADL動作の特徴を理解する。			
8	指導と介助方法の基本 神経筋疾患		神経筋疾患患者のADL動作の特徴を理解する。			
9	指導と介助方法の基本 認知症		認知症患者のADL動作の特徴を理解する。			
10	指導と介助方法の基本 脳性麻痺		脳性麻痺患者のADL動作の特徴を理解する。			
11	指導と介助方法の基本 呼吸器疾患		呼吸器疾患患者のADL動作の特徴を理解する。			
12	指導と介助方法の基本 心疾患		心疾患患者のADL動作の特徴を理解する。			
13	指導と介助方法の基本 関節リウマチ		関節リウマチ患者のADL動作の特徴を理解する。			
14	指導と介助方法の基本 人工関節全置換術		人工関節置換術患者のADL動作の特徴を理解する。			
15	指導と介助方法の基本 下肢骨折		下肢骨折患者のADL動作の特徴を理解する。			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト ADL(洋土社)、脳卒中の機能評価 SIASとFIM[基礎編](金原出版)						
【参考書】参考になるものがあれば、その都度紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の復習						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		教員室にて

授業名： 中枢系理学療法学 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 主に中枢神経系疾患で代表的な脳血管障害と脊髄損傷の病態とメカニズムについて基礎知識を学び、理解を深める					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経系の構造と機能、各種の病態等の基礎知識について理解を深める。 ②適切な評価、アプローチに応用できるように学習する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	中枢神経系の構造と機能(1)		神経系の構成、中枢神経系の構造と機能を理解する 中枢神経系と末梢神経系の構造と機能の違いおよび伝導路を説明できる			
2	中枢神経系の構造と機能(2)		神経系の構成、中枢神経系の構造と機能を理解する 中枢神経系と末梢神経系の構造と機能の違いおよび伝導路を説明できる			
3	脳卒中の発症および回復メカニズム		脳卒中の発症メカニズムと神経の可塑性を理解する 脳動脈の灌流域と発症メカニズム、機能回復機序を説明できる			
4	脳画像と臨床症状		脳画像と臨床症状について理解する CTとMRIの違いを説明でき、画像から評価、アプローチへと繋げるように説明できる			
5	脳卒中理学療法の評価とアプローチ		脳卒中理学療法の評価とアプローチを理解する 脳卒中患者に対する評価の意義、代表的評価について説明できる			
6	脳卒中の障害と理学療法 各論		脳卒中患者の運動麻痺を理解する 運動に必要な神経機構、運動麻痺の発生メカニズムが説明できる			
7	脳卒中の障害と理学療法 各論		脳卒中患者の感覚障害を理解する 感覚の定義と検査の意義を理解し、感覚の神経機構と障害のメカニズムが説明できる			
8	脳卒中の障害と理学療法 各論		異常筋緊張について理解する 異常筋緊張の病態と発生メカニズムが説明できる			
9	脳卒中の障害と理学療法 各論		運動失調について理解する 運動失調の病態と発生メカニズムが説明できる			
10	脳卒中の障害と理学療法 各論		脳卒中患者の二次的機能障害、姿勢バランス障害について理解する 脳卒中患者の二次的機能障害、姿勢バランス障害について説明できる			
11	脳卒中の障害と理学療法 各論		意識、認知機能障害の病態とメカニズムについて理解する 認知の高次機能障害の評価について説明できる			
12	脳卒中の障害と理学療法 各論		運動遂行機能障害、姿勢定位障害の病態とメカニズムについて理解する 行為の高次機能障害の評価について説明できる			
13	脊髄損傷の病態		脊髄損傷の現状と解剖・神経症状、尿路障害など様々な合併症を理解する 脊髄損傷の現状と解剖・神経症状、尿路障害など様々な合併症が説明できる			
14	脊髄損傷者に対する理学療法評価		脊髄損傷者への理学療法評価を理解する Zancolli, Frankel分類, Key Muscle, Key Sensory Point, 筋緊張検査を説明できる			
15	脊髄損傷者に対する運動療法とADL		脊髄損傷者の運動療法の意義を理解する 各種運動療法とADL場面における動作指導、介助方法が説明できる			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】1年次 神経系機能生理学に関する復習をすること。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp

授業名： 福祉住環境論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	2
橋本 雅郎	一般	橋本	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 高齢者や障害者が地域社会で生活が継続できるように、生活の利便性や安全性向上のための住環境整備について学習する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①福祉住環境コーディネーター2級相当の知識を得る。						
【履修上の注意】 方眼用紙を準備しておき、指示があれば持参してください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	高齢者の住環境と住宅施策	高齢者の住宅事情と住宅施策について理解する。 高齢者の住宅事情と住宅施策について説明できる。				
2	障害者の住環境と住宅施策	障害者の住宅事情と住宅施策について理解する。 障害者の住宅事情と住宅施策について説明できる。				
3	住環境整備におけるPTの役割	住環境整備におけるPTの役割と姿勢について理解する。 住環境整備におけるPTの役割と姿勢について説明できる。				
4	障害と自立支援	高齢者・障害者の特性を踏まえた環境整備のポイントについて理解する。 高齢者・障害者の特性を踏まえた環境整備のポイントについて説明できる。				
5	疾患別 福祉住環境整備	疾患別の住環境整備について理解する。 高齢者や片麻痺者の住環境整備について説明できる。				
6	障害別 福祉住環境整備	障害別の住環境整備について理解する。 脊髄損傷者やリウマチ者の住環境整備について説明できる。				
7	福祉住環境整備とケアマネジメント	介護保険制度における福祉住環境整備とケアマネジメントについて理解する。 介護保険制度における福祉住環境整備とケアマネジメントについて説明できる。				
8	福祉住環境整備の共通基本技術	住環境整備の進め方と留意点について理解する。 住環境整備の進め方と留意点について説明できる。				
9	住環境整備の基本的配慮	住環境整備の基本技術について理解する。 住環境整備の基本技術について説明できる。				
10	福祉住環境整備の手法①	住環境整備の基本的配慮について理解する。 住環境整備の基本的配慮について説明できる。				
11	福祉住環境整備の手法②	住環境整備の基本的配慮について理解する。 住環境整備の基本的配慮について説明できる。				
12	建築知識の基本	建築知識の基本について理解する。 建築知識の基本について説明できる。				
13	福祉用具	移動用福祉用具について理解する。 移動用福祉用具について説明できる。				
14	疾患モデルと福祉機器の活用①	事例検討 疾患モデルを考えて、適切な福祉機器をグループで検討する。				
15	疾患モデルと福祉機器の活用②	事例検討 疾患モデルを考えて、適切な福祉機器をグループで検討する。				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 改訂5版 (東京商工会議所)						
【参考書】 特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級取得に向けて復習すること。						
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて			